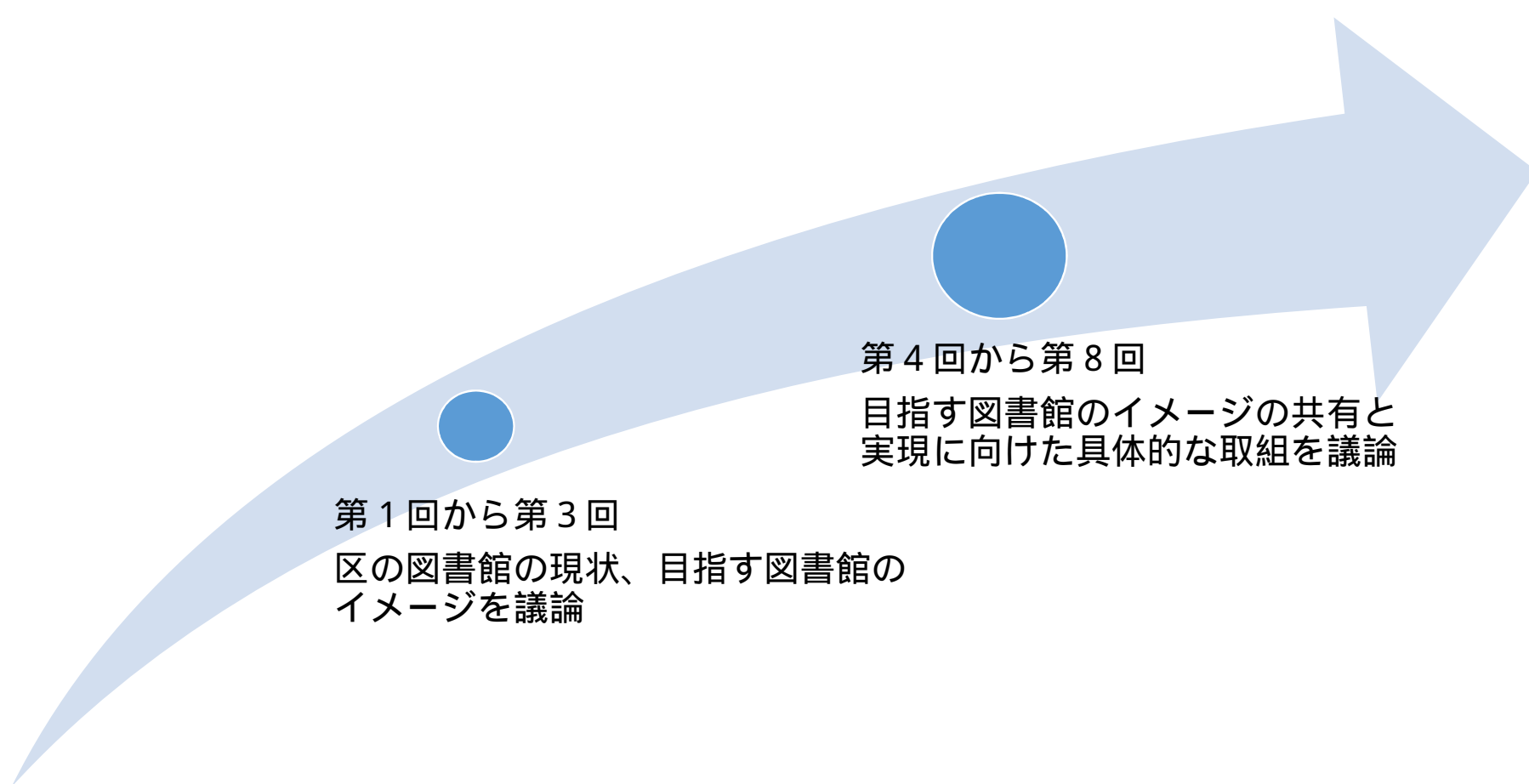


## 第9回 検討委員会のまとめ



# これからの情報拠点のイメージ（第1回～第3回）

## 主な意見

- ・時代の変化に対応し、適切な方法で情報を提供できる仕組みがある
- ・信頼性があり、多角的な情報提供と情報格差の解消に寄与する
- ・バーチャルからリアルにつながるができる、情報を深めることができる場所
- ・利用者同士の交流がある、行ってみたいと思える居心地のよい場所
- ・図書に限らない情報を扱うべき
- ・すべての人を対象に平等に情報を提供する
- ・図書館は静かだけでなく、会話を楽しめたり、親子が過ごしやすい、滞在したくなる空間づくりを
- ・利用者と資料を結び、目的のない利用者も新しい興味に繋がる仕掛けが必要
- ・図書館側から区民に発信していくことが重要
- ・情報を自力で得るための手段を誰もが会得するための情報の窓口にしていくのはどうか
- ・情報がどのように活用できるのか思い浮かべられるように提示し、連鎖的に欲しい情報に繋がることできる
- ・司書が情報の選び方とつなぎ方、情報の広がりや深まりをナビゲートしてほしい
- ・ICTを活用し、時間的制約のないサービスを強化、提供する必要がある
- ・地域特性やニーズを踏まえることで、特色ある館が作れるのではないか
- ・協働、情報、人が合わさることで地域力を高め、図書館がまちづくりの核となることできる
- ・NPO団体や近隣施設との連携を通して、提供サービスや図書以外の資料の充実等を図れるのでは
- ・豊富な行政情報が整理され、様々な場所へつながることができる

# イメージの実現に向けた取組（第4回～第8回）

## テーマごとに具体的な取組を議論（第4回～第8回）

### 興味を引き出す工夫・情報の充実

- ・ ICタグ等デジタルを活用し、目的とする情報のほか、その先につながる様々な情報に出会えるとよい
- ・ 専門的な施設との連携を強化し、区全体での情報提供という発想でサービスを見直していくこともできる

### 誰もがいつでも利用できる

- ・ 電子書籍は、図書館に関心があっても忙しくて利用できない層の利用の可能性を広げるチャンス
- ・ 読書バリアフリー法等に則した、ハード、ソフト共に全ての人に向けたサービスが必要

### 図書館の特色を磨く

- ・ 基本的なサービスを保った上で特色を出すことで、これまで利用のなかった人たちの利用に繋がる
- ・ 医療、子育て等の地域情報は各図書館で発信し、専門的な資料は各館で分担して収集してもよい

### デジタルの活用

- ・ パソコンの使い方相談会を定期的に行っているボランティア団体と連携することも考えられる
- ・ デジタル格差の問題を解決するために、デジタルの相談を受けるサービスを図書館で提供してもよいのでは

### 図書館を身近に感じてもらう

- ・ 大学生を巻き込みフリーペーパー等を作れば、学生の表現の場となり、図書館のPRにも繋がる
- ・ 地域のことがかかる資料や事業があり、その活動がまちづくりに繋がるようになるとよい

### 居心地のよい空間を作る

- ・ メリハリをつけて、話してもいい場所、そうでない場所を区分けしたらよい
- ・ 時間や曜日によって、場所の利用用途を変えたり、話してもいい時間としたりすることはできる


### 貫井図書館、練馬図書館での取組について

- ・ 図書館と美術館をフロアで分けるのではなく、一体の施設としてシームレスにする工夫も必要では
- ・ 図書館の本を生涯学習センターに自由に持ち出せ、活用しながら学びを深めていける仕組みがあればよい

### 情報を広げ、深める方法

# 検討委員会のまとめのイメージと今後について

- 1 検討の経過
- 2 「情報拠点」のイメージに関する意見
- 3 イメージの実現に向けた取組に関する意見
  - ・ 興味を引き出す工夫・情報の充実
  - ・ 誰もがいつでも利用できる
  - ・ 図書館の特色を磨く
  - ・ 図書館を身近に感じてもらう
  - ・ 居心地のよい空間を作る
  - ・ 貫井図書館、練馬図書館での取組について
  - ・ デジタルの活用
  - ・ 情報を広げ、深める方法



これらの意見や庁内検討を踏まえて、事務局で構想の素案を作成します。